

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
2006 年秋の大会 総会議事  
(2006 年 9 月 28 日 12 時～13 時 F 会場)

議 事 次 第

進行：山澤委員

- |                                  |              |
|----------------------------------|--------------|
| 1. 部会長挨拶                         | 飯田部会長        |
| 2. 部会の体制について (資料1)               | 高橋委員         |
| 3. 2006 年部会企画について (資料2)          | 山西委員         |
| 4. ICRP 調査研究連絡報告会について            | 飯本委員         |
| 5. 部会主催・共催シンポジウム等について (資料3)      | 飯本委員         |
| 6. 原子力学会誌特集記事及び連載講座の提案について (資料4) | 服部委員<br>米原委員 |
| 7. 2007 年春の年会以降の部会企画について (資料5)   | 山西委員 + 担当者   |
| 8. 日韓サマースクールについて                 | 飯本委員         |
| 9. 委員会報告                         | 各学会委員        |
| 10. その他                          |              |
| 11. 副部会長挨拶                       | 本間副部会長       |

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
第 4 期 (2006 ~ 2007 年度) 委員名簿

## 【役員】

部会長 : 飯田孝夫 (名大)  
副部会長 : 占部逸正 (福山大)  
副部会長 : 本間俊充 (原子力機構)  
会計監査 : 宮崎振一郎 (関電)

## 【運営委員】23 名

飯田孝夫 (名大) 飯本武志 (東大) 植頭康裕 (原子力機構) 内田滋夫 (放医研)  
占部逸正 (福山大) 木名瀬栄 (原子力機構) 栗原治 (原子力機構) 小嵐淳 (原子力機構)  
小佐古敏荘 (東大) 下道国 (藤田保健衛生大) 杉浦紳之 (近大)  
高橋知之 (京大) 塚田祥文 (環境科研) 外川織彦 (原子力機構) 服部隆利 (電中研)  
二ツ川章二 (RI 協会) 本間俊充 (原子力機構) 三浦太一 (高工研) 宮崎振一郎 (関電)  
百瀬琢磨 (原子力機構) 山澤弘実 (名大) 山西弘城 (核融合研) 米原英典 (放医研)  
( ) は常任委員会を構成する部会長、副部会長及び幹事)

## 【学会委員】

部会等運営委員	杉浦紳之 (近大)	2004 ~ 2006 年度
学会誌編集委員	服部隆利 (電中研)	2004 ~ 2006 年度
	米原英典 (放医研)	2004 ~ 2006 年度
	外川織彦 (原子力機構)	2006 ~ 2008 年度
学会プログラム委員	植頭康裕 (原子力機構)	2005 ~ 2007 年度
	木名瀬栄 (原子力機構)	2005 ~ 2007 年度
日韓サマースクール運営連絡会担当	飯本武志 (東大)	2005 ~ 未定

## 【担当委員】

総務担当 : 高橋知之、山澤弘実 (運営委員会及び総会運営、その他雑務)  
会計担当 : 塚田祥文 (会計)  
渉外担当 : 飯本武志 (学会事務局、他学協会、他部会等との連絡調整等)  
企画担当 : 山西弘城、栗原治 (部会企画の立案、運営、プログラム作成等)  
広報担当 : 小嵐淳 (ホームページ管理、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)  
組織担当 : 木名瀬栄 (投稿論文、学会発表の勧誘、部会員の増強)

2006 年部会企画について

**2006 春の年会** 3月25日(土) 10:00~12:00

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」

講演 : 座長:名古屋大学 飯田孝夫

1. 日本海におけるロシアの廃棄物投棄及び原子力潜水艦の臨界事故  
日本原子力研究開発機構 外川織彦
2. 小型核兵器・放射性物質によるテロ  
札幌医科大学 高田 純
3. 東アジアの原子力開発の現状と日本の広域モニタリングの必要性  
名古屋大学 飯田孝夫

総合討論: パネリスト:上記講演者3名

**2006 秋の大会** 9月28日(木) 9:30~12:00

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「炭素 14 の環境中移行研究の現状と今後の展開」

講演 : 座長:名古屋大学 山澤弘実

1. 樹木年輪を用いたセラフィールド再処理施設からの炭素 14 大気放出量の再評価  
日本分析センター 磯貝啓介
2. 閉鎖型生態系実験施設での C-13 を用いた大気・食物を介するヒトへの炭素移行実験計画  
環境科学技術研究所 多胡靖宏
3. 河川環境における粒子及び溶存態 C-14 の環境挙動  
北海道大学 長尾誠也
4. 森林炭素 14 循環と環境問題への展開  
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳  
名古屋大学 山澤弘実
5. 炭素 14 環境中移行モデル化の現状と EMRAS での展開  
京都大学 高橋知之  
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳

部会主催・共催シンポジウム等について

**第 8 回環境放射能・放射線夏の学校**

日 時：2006 年 8 月 7 日(月)～ 8 月 9 日(水)

会 場：ウィングス京都

主 催：第 8 回環境放射能・放射線夏の学校運営委員会

共 催：日本原子力学会保健物理・環境科学部会、日本放射化学会、日本放射線影響学会、  
日本保健物理学会、

**第 8 回「環境放射能」研究会**

2007 年 3 月開催予定

原子力学会誌特集記事の提案

平成 18 年 8 月 28 日  
保健物理・環境科学部会  
担当編集委員

1. タイトル 「最近の重要な放射線安全基準の考え方と関連する国際動向（仮題）」

2. 内容

- ・ BSS 関連 1 名（JAEA 山本）
- ・ クリアランス関連 1 名（JAEA 大越）
- ・ NORM の規制免除 1 名（NIRS 米原）
- ・ はじめに、おわりに 担当 1 名（東大小佐古）

3. 背景

7/7AM、第 1 回編集幹事会、PM 第 1 回編集本委員会に、電中研の服部編集委員が、NIRS 米原編集員の代理で出席し、下記の内容が明らかとなった。

- ・ NIRS 米原編集委員は、  
学会誌連載講座を担当する E グループメンバー。
- ・ JAEA 外川編集委員は、  
学会誌記事企画のうち、特集を企画担当する B グループメンバー。
- ・ 現在、両方のグループで、  
放射線防護に関連する、特集と連載講座の企画が、当部会に求められている。
- ・ 重複をさけるためにも、どちらかにしたい....と、電中研の服部編集委員から提案。
- ・ 次回、北海道大学の部会会合で、  
どちらにすべきかを議論し、詳細を執筆者とも相談して決め、  
その結果を、B グループ長の稲田委員、E グループ長の白川委員、  
C.C.で、近藤編集委員長にメールで報告することとなった。

以上

2007 年春の年会 部会企画（案）

「自然放射線に関する放射線防護の動向（仮）」（敬称略）

司会：占部または本間 2 時間

- 1．自然放射線の防護に関する国際及び国内動向（飯田） 10 分
- 2．自然起源の放射性物質の管理（米原または推薦若手） 20 分
- 3．航空機被ばくの管理（保田） 20 分
- 4．宇宙飛行士の被ばくの方（岩井または推薦若手） 20 分
- 5．職場と一般環境のラドンの対策（飯本） 20 分
- 6．パネル討論（シニア 2 名よりコメント含む） 30 分

以上